

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401698		
法人名	株式会社 ノア		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	函館市富岡町2丁目21番7号		
自己評価作成日	令和4年12月11日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

皆様と共に暮らす場所として広い敷地と静かな環境、ゆったりとした平屋作りで快適な生活を提供します。入居者様、一人一人のペースに合わせ今までと変わらないような生活が末永く送れるように介護スタッフが心を込めて生活のお手伝いいたします。協力医療機関及び地域の協力のもと住み慣れた地域に置いて健康及び社会との繋がりを大切にし、入居者様がいつまでも安心して生活が出来るよう応援します。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171401698-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171401698-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年2月13日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.ホームの環境と介護設備等の機能性:五稜郭公園に程近く、病院やスーパー等、生活に便利な住宅地にあり、介護設備、トイレ等も利便・効率性よく配置されている。職員、利用者による手作りの季節の飾り付け等で、家庭的な雰囲気作りに努めている。  
 2.職員の介護態度・姿勢: 職員は、利用者の観察・傾聴に努め、利用者・家族の意向を受け止めた介護支援に努めている。  
 3.運営推進会議の開催状況: 現在は書面開催としているが、参加者(地域包括支援センター、地域包括支援センター、地域代表、民生委員、家族等)に日常の運営状況の詳細を書面で送付し、意見を聞き取っており、運営への反映に努めている。  
 4.地域組織・機関との連携: 現在は自粛傾向にあるが、通例では地域組織・関係機関との連携は、相互にその意義の重要性を理解して、連携(行事・会議等)の協力強化に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は事業所の理念を理解し、サービスの向上に努めている。玄関には理念を目の届きやすい位置に提示している。	事業所理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。管理者を中心に、申し送りや内部研修の場で理解を深め、日々その実践に努めるよう指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練・花火大会・草刈り等の行事時にご参加を頂き、利用者等の交流をしている。町会の夏祭りを利用者様数名と楽しむ機会がある。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、近況報告、挨拶を交わすことで地域町内会との関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通してご参加くださった町内会の方々に説明しご理解を頂けるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では避難訓練や事故報告、おこなった事等を報告しご意見やアドバイスを頂き、サービス向上の取り組みを心掛けている。	現在は書面での開催としているが、通例では家族、町内会代表、行政が参加し、定例で開催している。会議内容は書面報告し、委員からの意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加頂き、事業所の状況を報告し意見やアドバイスを頂いている。	行政窓口からは、主に運営推進会議や電話で助言、指導を得ている。また、事業所の運営状況等の情報交換を行い、開かれた事業所作りにも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会を通して一人ひとり理解を深めている。ケアカンファレンスでは一人ひとりのケアについて話し合い対処方等検討している。	身体拘束委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、委員会、内部研修の場で具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立て、身体的な暴力・言葉の暴力・介護放棄・経済的な虐待などの種類があることを知り、内部研修を重ねて、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会などがあれば積極的に参加している。参加しやすいように事前にシフトを調整している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には重要事項説明を行い、ご利用者様には、理解、納得した上で契約をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様に意見や要望を聞く機会を設けそれを基に委員会が中心となり話し合いを行っている。玄関には意見箱も設置している。	通例では、主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、運営やケアプランに反映している。現在はお便りの他、電話、窓越しでの面会等、情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等を利用し職員の意見や要望を聞く機会を設けている又日頃から職員より情報収集を行っている。	職員会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、出された意見を検証して、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員から正社員への登用を行っており、勤務状況の把握に努めるとともに、各自が目標を持ちそこに向かって努力し達成出来るように人事考課も活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修への参加をとおして、自分達のケアについての振り返りの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会の会合や研修会等に参加し情報交換や意見交換の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が何を望み、どのようなところに不安を抱いているのかを、ご本人・ご家族様との面談での聞き取りや、基本情報からも拾い、入居後の生活に生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様と話し合いの機会を設けて不安や要望などを聞く機会を作っている、今後の関係性も大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には身体状況や生活歴を把握し必要なサービスを話し合ったうえで、計画を立て実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事作業や軽作業を行ったり買い物に出かけたりしている。日常ではゆっくり隣でお話しさせて頂く時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りを発行し行事の様子や翌月の行事をお知らせしています。面会・お電話等は自由でお金や病気の事だけでなく色々なお話をさせて頂きながら、ご家族様との時間を大切にさせて頂けるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日来られるご家族様もおられ、ご家族との時間を見守っている。中には馴染みの美容室へ行かれる方や通院を利用し外食を楽しまれている方もいらっしゃいます。	通例では、家族、知人が来訪した際には、居室で寛いで過ごせるよう努めている。希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・音楽・ゲーム・家事・昔話等を交えて、職員がご利用者様同士が関わり合いを待って暮らして頂ける様に、又、利用者様同士が、おしゃべりしたり、楽しんで頂けるように職員が間に入るなど努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される時は、情報を提供し、移られた先でも困る事がないようご家族様の相談に応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には必ずご本人様やご家族様から生活歴や意向等を確認させて頂いている。日々の生活の中でもきずいた事など職員間で話あっている。	職員は家族の協力を得ながら、利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、応えるよう努めて、個々の誇りや個性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様・ご友人その他関わりのある方々からの情報を頂き、馴染みの暮らし方が出来る様にお話し合いを大切に、把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・業務日誌・受診記録等で、過ごし方・体調の変化を記録し、申し送り等で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	都度、職員が気付いた事や様子等記録したり、引き継ぎなどで伝えている。定期的に行われているケアカンファレンスの中で必要なサービス内容を話し合い介護計画を作成している。モニタリングは二ヶ月に一度行っている。	本人、家族の希望を取り入れ、介護記録を基に職員による気付きをケアカンファレンスの場で検討し、介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に則した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入して、日々の様子や変化等の情報を職員が共有し、実践出来るように心掛けているとともに、申し送りの際には、特に気を付けている。会議を開き、介護計画の見直しに活かせる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊支援や、特にボランティアを活用する等柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのあるお店を利用したり地域の行事等がある際は積極的に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご本人の希望を伺い、かかりつけ医を決めて頂きスムーズに医療が受けられるよう支援している。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、医療機関との協力体制があり、指示、助言を受けながら、職員は受診支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携において、ご本人様に変化が見られた随時報告している。往診等の際には普段の様子を伝える等適切に医療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供し、入院中の様子を伺ったり、退院前にはご家族様・病院と連携し、カンファレンスを行い、退院後の生活支援に万全を期す様に心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期において事業所で出来る事、出来ない事を事前に伝え理解していただいている。	契約時に事業所の指針を説明し、状況に合わせて意向の再確認を行っている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるための話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しているが、今後、研修を増やす事や、外部からの講師の研修を検討中である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の火災を想定した訓練では地域の方に協力していただいている。それ以外の火災に対してはマニュアルを準備段階である。	定例で火災を想定した避難訓練を実施している。同法人のサービス事業所や地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	自然災害想定での避難訓練の充実とマニュアルの整備を計画していることから、その進展に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待防止の内部研修や外部研修への参加などで学び、又、学んだ事の実行にも努めている。虐待防止・身体拘束廃止等の勉強会を通して、振り返りの機会も設けている。	利用者の立場に立ち、プライバシー、羞恥心に配慮している。日々のトイレ誘導や入浴時の対応等も見直ししながら、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が選択する場面(おやつを選ぶ等)をつくり、声掛けをしながら行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲でご本人のペースを尊重するよう努めている。施設の業務の流れに合わせるのではなくご本人様のリズムやペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の身体状況や生活歴を参考にして支援につなげている。訪問理容を利用している方もいらっしゃるのでホーム内においてもおしゃれを楽しめる機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備出来る利用者様は、今現在難しく、茶碗拭き、お盆拭き、テーブル拭き等のお手伝いをお願いしている。アレルギー・食事の好みなど献立作成に反映している。	食事は食べやすさ、盛り付けに留意し、料理の過程や下膳、テーブル拭き等、体調や体力に合わせ、お手伝いをお願いして、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量を記録し、把握できるようにしている。一人ひとりにあった普通食・刻み食・ミキサー食、とろみ付け等、体調の状況や嚥下状態に応じて工夫をしながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアを行っている個々の身体状況等を把握し必要な支援を行っている、又、必要に応じて、ご家族様と歯科受診などを話し合っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し適宜声掛けや、誘導、排泄のサイン等を見逃さず個々の状態に応じた支援が出来るよう努めている。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、乳製品・繊維質を取り入れる等、自然な排泄となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促せる様に、食事・水分(牛乳・ヨーグルト・食物繊維の多いココア等)に工夫しているが、難しい方は医師の指示のもと、薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に合わせて声掛けを行っている、無理にお誘いせず時間を置くなど工夫している、体調によってはシャワー浴や清拭等個々の状態にも応じた対応をしている。	出来る限り、利用者の希望に沿えるようにしている。拒否のある場合も、利用者の気持ちに寄り添い、声掛けに工夫しながら、心地よく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるのに大切な睡眠は、日中の運動や活動を多くして、不安な気持ちを取り除けるような接し方やコミュニケーションをとる事により安心して眠る事が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は利用者全員分をファイルにし職員で確認出来るようになっている。薬の変更などは受診記録などに記入し職員間で周知出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や散歩、縫い物、洗濯物干し等、一人ひとりにあった役割が持てるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出のご希望には、なかなか難しいが、個々に可能な限り散歩や買い物等お応え出来るよう心掛けている。春・夏・秋には、行事を利用し外出の機会を作っている。	全体での外出行事は自粛しているが、状況に合わせて、少しずつ閉じこもらないよう検討し、敷地内の散歩やドライブ等から実践している。レクレーションの充実等、利用者の気分転換や心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがご本人で管理している方もいらっしゃると思います。散歩などに出かけたついでに買い物などで金銭のやり取りをおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使える環境にあります。又お手紙や年賀状等もご家族へ確認しながら支援につなげている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはくつろげるようにソファや椅子が置いてあったり壁には綺麗な飾り付けも行い明るい空間を意識している。	共用スペースは、アルコール消毒による清潔、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った作品が飾られ、明るく清潔で安全な環境作りに留意し、楽しみある生活が出来るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいただいたり、椅子を好きな場所に移動していただいたり自由に過ごして頂けるようにしている。お食事を一人で摂りたいと希望のある方は、テーブルと椅子をお部屋へ用意する等の配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や身の回りの物を置くなど馴染みの物を用意していただいたり、ご本人様の意向に沿って冷蔵庫やテレビ等の配置もある。	居室には馴染みの家具や冷蔵庫等が自由に持ち込まれ、家族写真や手紙などを飾り、本人にとって居心地よい部屋となるよう努めている。状況に応じた環境作りも、本人、家族と相談して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を見極め支援にあたることでご本人様の負担や不安を軽減しその方の能力を発揮した生活の支援に努めている。		